

9月

新着本の紹介



予約の受付は、配架する9月1日、午後1時からです。

青字は児童書

書名	著者名	内容
罪の轍	奥田 英朗	刑事たちの執念の捜査×容疑者の壮絶な孤独——。犯罪小説の最高峰、ここに誕生！ 東京オリンピックを翌年に控えた昭和38年。浅草で男児誘拐事件が発生し、日本中を恐怖と怒りの渦に叩き込んだ。事件を担当する捜査一課の落合昌夫は、子供達から「莫迦」と呼ばれる北国訛りの男の噂を聞く——。世間から置き去りにされた人間の孤独を、緊迫感あふれる描写と圧倒的リアリティで描く社会派ミステリの真髄。
伊勢佐木町探偵ブルース	東川 篤哉	伊勢佐木町に事務所を構える私立探偵・桂木圭一がある日、知らぬ間に再婚していた母親を訪ねると、お相手は神奈川県警本部長だった。しかもその息子は伊勢佐木署のエリート刑事で…。
氷獄	海堂 尊	新人弁護士・日高正義が初めて担当する事件は、手術室での連続殺人「バチスタ・スキャンダル」だった…。「チーム・バチスタの栄光」のその後を描いた表題作を含む全4篇を収録。
老父よ、帰れ	久坂 部羊	45歳の矢部好太郎は有料老人ホームから認知症の父・茂一を、一念発起して、自宅マンションに引き取ることにした。隣人からの認知症に対する過剰な心配、トイレ立て籠もり事件、女性用トイレ侵入騒動、食事、何より過酷な排泄介助……。懸命に介護すればするほど空回りする、泣き笑い「認知症介護」小説。
決断の刻	堂場 瞬一	グビーの花形選手とファンだった2人の男が、ネタ元と刑事の関係を経て、トップを狙う企業人と署長を目指す警察官に。2人の道はどこへ向かうのか。2人にとっての正義とは。男たちそれぞれに決断の刻が迫る。
ラッコの家	古川 真人	見えないからこそ見えてくるものがある。夢とリアルが絶え間なく交錯する老女は、自らの空想に怯えていたことを笑い飛ばして生きる。

<p>鎌田式「スクワット」と「かかと落とし」70歳、医師の僕がたどり着いた</p>	<p>鎌田 實</p>	<p>ピンピンコロリの答えは「筋活」だった！ 医師の著者が3年間で9キロ減量した、シンプルな運動なのに効果がある筋活＝「スクワット」と「かかと落とし」を紹介。食事の大切さや心の筋活にも触れる。</p>
<p>小説 天気の子</p>	<p>新海 誠</p>	<p>高校1年の夏、離島から家出し、東京にやってきた帆高。降り続く雨の中、都会の片隅で、不思議な能力を持つ少女・陽菜に出会い…。2019年公開の長編アニメーション映画「天気の子」の監督が自ら執筆した原作小説。</p>
<p>まいごのたまご</p>	<p>アレックス・ラ ティマー</p>	<p>巣からころがり落ちた、まいごのたまごが、お母さんをさがしています。あたりにいた恐竜たちも心配して、たまごの親をさがしますが…。ティラノサウルス、トリケラトプスなど、子どもが大好きな恐竜たちが勢ぞろいする絵本。</p>

※NHKテレビテキスト

「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「きょうの健康」も貸し出ししています。